

現代生活学科 公開市民講座のご報告

実践女子大学 現代生活学科では、9/27(土)に「農を活かした新たなライフスタイルを考える」と題した公開市民講座を開催しました。当日は10代から60代まで、市民だけでなく政策担当者、関係団体そして本学教員、学生など多様なバックグラウンドを持った約40人の参加者が集まりました。

今回の講座は、**現代生活学科のアクティブラーニング型の授業でも取り入れている「ワールドカフェ」や「フィッシュボウルダイアログ」による双方向・参加型の企画**でした。参加いただいた市民の方からは、「多様な人々が話しやすい雰囲気の中で奥深いディスカッションができた」、「ぜひこの企画をシリーズ化してほしい」などの声を頂きました。



今年度に設置されたばかりの現代生活学科の学生(1年生)にとっては、**一般の方を交えてディスカッションをするのは初めての経験**でしたが、市民の方からは「**学生は積極的に議論に参加していた**」、「**実践女子大の学生はしっかりしている**」等の声を頂きました。参加した学生は学び始めてまだ半年足らずですが、**着実に学びを自分のもの**にしてくれつつあるようです。

現代生活学科ではこれからも、このような双方向・参加型の学びの機会を積極的に展開していきます。

実践女子大学現代生活学科では、これからの日本や世界の経済、社会の大きなテーマである「環境」、「メディア」、「自立社会」について学びます。

1 学年 60 人という少人数教育の利点を活かして、アクティブ・ラーニング(注)形式の授業を多く取り入れることによって、学生の主体的な「学び」の姿勢を育てています。

(注) アクティブラーニング・・・大人数の受講生に対して講師から一方通行で説明を行う「講義形式」の教育とは異なり、学習者の主体的な参加を取り入れた講義・学習法

現代生活学科 公開市民講座に参加して — 学生の感想 —

前期の授業で何度か経験したワールドカフェ方式だったので話やすかった。市民の様々な職業を経験した上での意見を聞くことができ、自分では気が付かなかった視点からのお話を聞くことができ、そこからでは、どの方向にしていけばよいのかといった具体的な提案を出していくことができた。



都市農業の新たな展開と可能性について話し合っただけで「農のフロンティア」という案はとて新鮮な印象に残りました。

今回友達だけでなく専門家の方や一般の方と一緒にワールドカフェができて、様々な意見を聞き話し合うことができてとても良い体験になりました。

私自身、あり「農」について興味がありはいたが、今回参加して「農」について考えることも楽しいと感じました。農について考えることにより、自分のライフスタイルが広がるということも改めて知り、今回出たアクションについて（取組む）、農園（ジッパ）考え次第で今減り続けている農業を職とした

人や、自給自足の増加につなげると思いました。
私はメディアに興味があるので、農とメディアのつながりについて調べたいとも楽しいと思います。



生計をたて、農業をされている人たちがいたことで、これを機に参加しようと思いました。

また、他にもいろいろな活動をしている人がいたことで、もっと知りたいと思いました。

今回の話し合いで出た、不揃いで商品にならない野菜をジュースにして売るという企画が出来れば取り組みたいと感じました。
今回、農業に関わる方々とお話できて、非常に楽しかったので、少しでも私達がサポート出来ればと思いました。



現代生活学科は、「環境」を理解し、「メディア」の技術と考え方を身につけ、「自立」した社会と暮らしづくりを構想し、実践するための教育を展開します。
私たちとともに、女性ならではの視点で、新たな社会づくりを考えていきませんか？

実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 News! 2014年第19号

編集・発行 実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 2014年10月10日発行

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 Tel. 042-585-8918 Fax. 042-585-8919

実践女子大学 <http://www.jissen.ac.jp/>

現代生活学科 <http://www.greenphronesis.org/>